

異文化理解－ヨーロッパ編 旅、文化、歴史

科目責任者 小川和彦
 学年・学期 1学年・2学期

I. 前文

本科目ではヨーロッパを理解する事を主眼とします。近年のグローバル化は著しい。しかし、日本と外国に関して異文化理解はまだ進んでいない。日本人が日本の学校で外国語を学んでもいざ外国人と話すとき意思疎通が不可能となることがある。つまり相互の異文化理解が十分でないからだ。この点を補うため私が海外で経験した事を直接伝えたい。ヨーロッパの歴史、文化を学ぶ事で異文化を知るきっかけを持つことになる。その知識は海外で学ぶ時、仕事をする時、あるいは国内で外国人を話すときに役立てることができるであろう。

なお、履修者は5人までとします。

II. 担当教員

非常勤講師 小川和彦

III. 一般学習目標

・グローバル化した現代日本とEUの異文化理解を探る。

IV. 学修の到達目標

- 1) 異文化としてのヨーロッパ文化を理解し、相互理解の可能性を探る。
- 2) 将来の海外研修を想定し、異文化との共存について考える。
- 3) インターネットを使用し、地図の判読、異文化関係資料の使い方を学ぶ。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
 6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
1	7	8	水	5	異文化が交わる場所。ライン川の例	小川和彦	1, 2, 5
2		15	水	5	ライン川を歌った音楽	小川和彦	1
3	8	19	水	5	スイスのライン川。ボーデン湖, ラインの滝	小川和彦	1
4		26	水	5	バーゼル。スイスのライン河畔の町	小川和彦	1
5	9	2	水	5	ストラスブール。ライン河畔のフランス	小川和彦	1
6		9	水	5	ケルン。大聖堂の町	小川和彦	5
7		9	水	6	まとめ。ライン川はオランダ経由で北海へ	小川和彦	2

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

以下のとおり成績評価する。() 内は評価の割合。

最終レポート (65%), 事前課題100字まとめ (28%), 授業始まりの小テスト (7%)

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) 教科書：なし
- 2) 図 譜：ウィキペディア等のネット資料
- 3) 対面授業ですが、zoom を使用し資料を示します。
 端末タブレット，スマホ，PC でzoom接続が出来るものを持参して下さい。

VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：水曜授業終了後。要アポイント。
 なお，アポイントまたは授業中の質問に関して獨協医大ウェブメール又はLMS Moodle フォーラムにて受付可能。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	◎
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の100字まとめ課題について，その日の授業でコメントします。
 最終レポートのテーマは第7回授業にて各自発表，その際，これもコメントいたします。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（10分）：予習用の資料を配信するので，必ず予習すること。
 授業当日予習資料より授業始まりに毎回小テスト実施。
 事後学習（10分）：最終レポートに備えて，授業内容を毎回まとめておくこと。

XII. コアカリ記号・番号

医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版
 PR-01-01-02, RE-04-01-02, SO-06-01-03